

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100453		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム三和苑		
所在地	熊本市西区城山代3丁目6番2号		
自己評価作成日	平成28年12月11日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成29年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、ケアに関する研究課題を決め、一年間を通して、目標達成のため取り組みを行い、年度末にその成果をまとめている。  
今年度の目標は、「記憶をつなごう」で、記憶の帯が途切れてしまう認知症の方の記憶の点を、いかに線として結び、少しでも楽しかった思い出を思い起こしていただくことで、単調になりがちな生活に、楽しみの時を提供出来るかに取り組んでいる。  
また、毎月、自己研鑽のためにテーマを決めて学習会を行い、認知症ケアだけではなく、接遇、記録など業務に関する知識の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景と商業施設とが隣接し時代の流れが感じ取れる地域であるため、隣近所での日常的な関わりが希薄になりがちなか、新設された公園での関係作りを試みたり、ボランティアの継続受入れ等、模索した取り組みが行われている。法人の経営するグループホーム3事業所との合同の会議や研修の機会が切琢磨する関係づくりが形成されており、今年度の事業所テーマ「記憶をつなごう」では、楽しい思い出を思い起こすための関わり方を考えたケアが行われている。中間発表会や報告会が実施されており職員の課題解決に向けた協力体制が日々のケアに生かされている。医療体制にも恵まれており、隣接のかかりつけ医の往診や看護師の支援が充実し、利用者、家族にとっても安心して過ごしている様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と共にある施設作りを目指した。事業所の運営理念を全員で共有・認識している。地域貢献を大きな目標とし、毎月清掃活動など自分達に出来ることを行なっているが、施設として貢献するまでには至っておらず、今後の課題である。	入職時の法人新人教育で法人・事業所の理念を学び、共有・認識を行っている。ホームでは法人理念とホーム理念を見やすい場所に掲示し、来訪者にも分かり易くしている。会議等でも理念の振り返りを行い、実践に基づいたケアを実施しているか確認をしあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くに公園があり、日常的に散歩に出掛けることで、地域の方と顔なじみの関係が築けるように努めている。また、自治会に入会しており、夏祭り、運動会など地域の行事にも積極的に参加している。	近くに公園が出来たことにより地域の方々と会うことも増え、新しい顔なじみの関係も出来てきている。地域行事への参加だけでなく、隣接施設のデイサービス利用者の訪問があったり、関わりある方々から野菜を頂いたりとの関係も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の代表の方に参加していただき、認知症の疾患別症状や対応方法を事例をあげてわかりやすく説明している。特に困難事例を多く紹介し、なかなか上手くいかない実情を公にすることで、認知症についてより深く知っていただくように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況や変化の推移を報告したり、力を入れて取り組んでいることを写真や事例を交えて説明し、自由に意見や感想を述べていただいている。いただいた意見は、サービスの質の向上につなげられるよう全職員で共有している。	2ヶ月に1回の会議では、ホームの現況報告だけでなく認知症についての勉強会を行う等、工夫を凝らした内容で行っている。会議では参加者である地域代表から活発な意見や感想を頂くことも多く、サービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告すべき事案の発生時や、不明点が生じた場合はその都度担当者に連絡し、助言をいただいたり、対応法を協議・確認したりしている。	報告事項発生時や解らないこと等が生じた時等には都度担当者と連絡を取り合い、関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアはもちろんのこと、なぜそれがいけないのか、身体拘束がもたらす弊害を全職員が理解している。	身体拘束については法人内研修で勉強会を実施している。日頃の具体的な言葉を取り上げ、一つ一つに対して言葉の拘束にあたらなどうかを話し合い、振り返りを行うことで、職員のケアに活かしている。	

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する学習会を行い、自分達の日頃の対応で不適切と思われる言動がないかを振り返ることで、虐待行為につながりかねない芽を摘むように努めている。玄関、居室の施錠はしない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関して学ぶ機会を持ち、制度に対する理解を深め、相談時に全員が対応出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等説明が必要な時には、分かりやすい言葉を使い、理解・納得が得られているかを確認しながら行っている。また、内容に変更があった場合は、その理由と内容をきちんと説明し、変更箇所の差し替えを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも意見や要望が伝えられるような環境作りに努めている。また、面会時には、こまめに状態報告を行う等会話をするようにし、日頃から要望を言いやすい関係作りにも努めている。	意見箱の設置だけでなく、家族の面会には職員が声を掛け近況報告を行い、何か意見が無いかなど、意見要望の出やすい環境を作っている。広報誌の他月1度は家族に近況報告のお便りを送付し、遠方の家族にも積極的な関係作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方針と事業計画を決める際にはスタッフ全員で話し合って決めている。また、重点的に取り組むことを共通目標として掲げ、その進捗状況も毎月全員で振り返り、課題に思う事などを活発に意見交換している。	月に1度事業所会議を行い職員の意見要望を出す時間を作っている。お互いのケアや普段言えない意見なども出ることが多く、きづきや共有すべき積極的な意見は業務改善に活かされている。会議参加時には、普段のケアを振り返り意見を持ち寄る仕組みが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公平に役割分担出来るようなシフト作りをし、過度な負担がかからないようにすることで、仕事に対する士気が下がらないように努めている。また、有給休暇の取得推進、誕生月の特別休暇など、心身の健康に向けた取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においては、毎月様々なテーマのもと研修会が実施され、介護職としてのみならず、社会人として成長出来るような学びの場となっている。また、法人外の研修もそれぞれに適したものに参加出来るよう十分に配慮されている。		

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市のGH連絡協議会に入会しており、協議会主催の学びの機会にはなるべく参加するようにしている。また、校区のGHとは、年3回事例検討会や災害発生に備えての対応についてなど意見交換を行い、交流を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、家族や担当ケアマネジャー立ち会いのもと、本人と面談し、生活歴や現在の楽しみ、要望などを確認し、スムーズな入所に繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に話し合う機会を設け、本人および家族の要望や不安に思うことをお聴きし、事業所として出来ることと家族の協力が必要なことを具体的に説明し、疑問点が解決するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の要望に耳を傾けつつ、本当に必要な支援は何かを分析して双方の擦り合わせを行い、納得を得た上でサービスと導入するようにしている。また、他の相談窓口などの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何ごとも本人の意思を尊重することを第一とし、同意を得てから行なうようにしている。また、出来ることに関しては、敢えて手を出さず、自分で行っていただけるような環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援する上で、いかに家族の力が不可欠であるか日頃から伝え、本人との関わりが密に続くように努めている。しかし、入所が長くなるにつれ、事業所に任せっきりという家族も少なくないのが現実である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の来訪はいつでも自由に来ていたが、こちらから出向くことは出来ていない。今後の課題である。	利用者の身体状況等により家族行事への参加も年々減ってきている中、家族との繋がりを大切にし、年2回の家族会を実施したり、家族協力での外出等の支援を行っている。隣接デイサービス利用の友人来訪やボランティアの訪問、散歩時の近隣の方々とのふれ合い等、出来る範囲での支援に努めている。	地域と共にある施設とはいえ、入居者の状況により、日常的に出向いての関係継続は難しくなっているようです。公園で出会う等の新しい馴染みの関係作りも出来つつあるようなので、是非今後も地域の中の施設であり続けてください。

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を考慮して、席の配置を行い、全体のバランスがなるべく均等になるように配慮している。特に、自己主張の出来ない方に関しては気を配り、弱い立場にならないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご家族からの相談にはいつでも応じ、必要な助言や相談窓口の情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の立場に立って、心身の状況とその意向を考慮した介護計画を作成し、それに基づいた生活支援を行っている。意思表示することが困難な方は、日常の関わりとこれまでの生活歴等から、考えられることを予測し、本人の思いに近づけるように努めている。	職員は日常生活の中で利用者に寄り添うことで様子や会話から意向の把握に努め、特に入浴時や就寝前の何気ない会話も大事にし職員で共有している。利用者一人ひとりの生活歴を大切にしており、日頃の様子等から思いを汲み取るようにし、介護計画にも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時に、本人、家族、ケアマネ等から、これまでの生活歴や環境、暮らし方などの情報を収集し、なるべくその暮らしのリズムが継続出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から一人ひとりをよく観ることを大事にし、生活の様子を細かく記録することで、生活パターンや心身状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護職とで担当者会議を行い、課題やケアの方法について検討し、プランに反映している。状態に変化が見られる時は、事業所会議においてケース検討会を行い、今、何が必要かを話し合い、より現状に即したプランになるようにしている。	本人・家族も交え担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1度、見直しは半年毎に行っており、状態の変化に伴い必要であれば都度対応をしている。事業所会議ではケース検討を行っており、利用者のケアについても話し合いを重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づきは細かく記録に残し、全スタッフで共有することで、統一したケアの実践を行い、必要なプランの見直し出来るようにしている。		

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者にとっての“今”がどれだけ大切かを全職員が理解し、その時の声に応じた柔軟な対応が出来るようにしている。職員での対応が困難な場合は家族に協力を依頼し、本人の思いの実現に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力で作物の収穫体験をさせていただいたり、町内会の行事に参加させていただくことで、施設内の生活では味わえない楽しみを感じることが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人及び家族の意向に基づいてかかりつけ医を決め、必要な受診と治療が適切に出来るようにしている。	利用時に本人・家族の希望によりかかりつけ医を決めているが、現状、全員が併設のクリニックである。日・祝以外は毎日医師の訪問があり、訪問看護も週1度全員が受けている。必要な場合にも速やかな医療が受けられる。専門医の受診は基本的に家族介助であるが、職員による介助支援もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際は、看護師に日頃の様子を記載したケース記録を開示すると共に、特に気になることは口頭で伝え、指示を仰いでいる。その結果、必要があれば受診をし、適切な治療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に、医師から治療計画と大まかな入院期間を聞き、それに合わせて定期的に状態伺いに出向いている。また、面会の際には病院での生活の様子や経過、リハビリの進捗状況を確認し、出来るだけ早期の退院に繋がるよう、病院側にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の面接の段階から、事業所の重度化の指針と、医療依存度が高なった場合の対応について説明し、署名捺印で同意を得ている。終末期ケアは行っていないが、ご家族の希望になるべく添えるよう、早い段階から特養などの入所案内を行っている。	重度化した場合の対応については入所時に本人・家族へ説明し同意を得、終末期の取り組みは行っていない。継続的な医療が必要になった場合は掛かりつけ医や他の機関と相談し、本人・家族同意の上で対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は、救命士の指導のもと、救急法の研修を行い、救命に必要な手技を実践形式で学んでいる。		

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は頻繁に実施し、繰り返し行うことで避難誘導に必要な手順を体で覚えるようにしている。	現在では毎月消防訓練を行っている。夜間想定もあり、利用者も参加して行うことで有事に備えている。従来より地震の際の職員体制についてもマニュアル化されており、熊本地震の際には素早い対応がとられた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュード哲学の実践を事業所の方針に掲げ、学ぶ機会も持ちながら、一人ひとりとしっかり向き合うケアに努めている。	今年度より法人でユマニチュードを導入し、学習会を重ねることで知識を深めケアに活かされている。目線を合わせた声かけ等、具体的なひとつひとつのケアについて実践が定着し、利用者を尊重し向き合うケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何ごとにも、本人の意思を確認した上で行うようにしている。自己決定が難しい方に対しても、必ず説明や選択の声かけをし、介護者の一方的なケアにならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の“今”の気持ちを尊重し、出来る限りその時に希望がや生きがいや叶えられるよう柔軟に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを第一に尊重する共に、毎日同じ服装にならないように配慮したり、季節に適した服装になるよう助言したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、メニュー作りに活かしている。また、出来る力に応じて、食事作りや、おやつ作りなど調理にも参加していただく機会を設けている。	利用者の意見を取り入れ季節感を大切に献立で、ホームで調理し匂いや音を感じながら手作りの食事を楽しんでいる。地域の方から頂いた野菜等、地元の旬の食材も並ぶ。野菜の皮むきや配膳は出来る範囲で参加もあり、職員も一緒に食卓を囲み、共に時間を過ごすことで会話ははずみ楽しいひとときが流れている。	

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事と水分の摂取量を記録に残し、必要分に達しない場合は、高カロリー補助食品や本人の好物などの代替えを用意して、十分な栄養が摂取出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを十分に承知している。その上で自分で出来る方には歯磨きの声掛けをし、磨き残しがある方や、介助が必要な方には、職員が支援して口腔内の清潔が保てるようにしている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は全員トイレで座って排泄出来るよう支援している。また、失敗があった場合は、さりげなく声掛けし本人の羞恥心を傷つけないような対応を心がけている。	排泄記録により把握し、日中は排泄の自立を支援している。声掛けはもちろん、一人ひとりのパターンやしぐさも全職員把握できており失敗があった場合は対応にも気遣いのある支援を心がけている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や十分な水分摂取、運動など出来るだけ自然な形での排便コントロールを心がけ、便秘の予防に取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は1日置きであるが、希望があればその時に入っていたり出来るよう柔軟に対応している。実施時間については日中のみで、夜間の対応はしていない。	基本的に1日おきの入浴で、希望により個々に対応している。入浴剤を利用し、楽しんで頂く工夫もされている。入浴しない日も着替えを朝晩行うことで清潔保持に努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に合わせて、日中でもベッドに横になる時間を設けている。また、昼夜逆転にならないよう生活のリズムを整え、夜間の安眠に繋がるように支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬事情報をファイリングし、全職員が把握出来るようにしている。特に、認知症の薬に関しては、その副作用の可能性も理解し、状態に変化が見られた場合には早めの専門医への受診を行い、薬が適正に作用するよう連携を図っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自信を持って生活出来るよう、その能力に応じて役割を担っていただいている。また、日々の生活に楽しみが持てるよう、好みや関心ごとに応じたレクリエーションや製作活動を行っている。	

グループホーム三和苑

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の要望にはなるべく応えるように努めているが、集団生活でもあり、その日の希望に添えないこともある。その場合は後日計画し、希望が叶えられるようにしている。家族に協力を依頼する場合もあるが、地域の方々の支援を受けての外出は今の所出来ていない。	年間を通じ初詣をはじめとする様々な外出計画が予定され、支援を行っている。一人ひとりの希望により個別の対応も行っているが、全員での外出計画は利用者の状況から難しくなってきた。その日の様子により散歩に出掛けたり、ホーム内で外の気配を感じる等、個々に合わせた対応を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を望む方に対しては、ご家族の同意のもと、本人に所持していただいているが、基本的には職員で管理し、買い物などの希望時にご本人に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでもご家族と連絡が取れるよう支援している。また、携帯を所持して、個人的に自由に連絡を取り合っている方もおられる。毎月、ご家族へお便りを出しており、ご利用者本人にも、ひと言添えていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の多くの時間を共有して過ごすホールは、皆さんの製作活動の作品や季節感のある飾りつけをし、馴染みをもてるような空間作りに努めている。自然の彩光を取り入れ、常に明るい雰囲気であることもご利用者の安心につながっている。浴室やトイレは、臭いや温度管理、清潔保持に気をつけ、不快な思いをしないように努めている。	ホーム内は明るく開放的で、利用者は思い思いにホールで過ごす姿がある。歌を歌ったり、テレビを見ながら話す姿もあり、過ごしやすい環境である。掃除も行き届いていて心地良く過ごすことができる。季節感を考えた飾りを心がけ、またイベント時の写真は利用者や家族との会話にも繋がり喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はいつでも自由に使っていただいているが、独りになれるような空間はない。独りを好まれる時は自室へ案内したり、職員と一緒に散歩に行ったりして対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の居室の家具は、すべてご家族に用意していただき、本人の使い慣れたものや家族の写真など、家族の気配を感じる中で過ごせるようにしている。	居室には洗面台が備え付けられ、家具はそれぞれの好みにより用意されている。使い慣れた物や家族写真に囲まれた居室など、安心して穏やかに生活できる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間と居室、トイレなどを一人で自由に行き来出来るよう、入口には名前や案内を掲示している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

グループホーム三和苑

29 年 2 月 19 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	利用者と地域の結びつきの重要性は理解しているが、受け身になっており、こちらから出向いたり、行動を起こすことが出来ない。	地域に出向く機会を増やし、事業所の存在を知っていただく。	職員主体で行っている食材の買い出しを、利用者も一緒に行く機会を増やし、顔名馴染みになる。 また、個別に友人・知人との交流の機会を作る。	1年
2	35	自然災害に対する対応訓練が十分に出来ておらず、マニュアルも見直しの途中である。	災害への備えが十分に出来、有事の際は、全職員が適切に行動出来る。	自分たちに則したマニュアルを完成させ、年3回は訓練し、対応力を身につける。年に1度は、災害を想定して備蓄品だけで過ごす日を設ける。	6か月
3	49	事業所主体の外出支援は月1回実施しているが、個別の要望に応じた、日常的な外出支援は殆ど出来ていない。	家族の協力を仰ぎながら、個別の要望に応じた外出の機会が増える。	広報紙を活用し、ご家族へ協力依頼をしたり、実際に外出された時の様子を紹介して、家族との関わり合う時間の大切さを伝える。	1年
4	9	「帰りたい」という本人の思いを把握してはいるが、家族は望んでおらず、結果としてその思いに沿った支援は出来ていない。	本人と家族の間にある、思いの差を小さくすることが出来る。	家族にも協力を仰ぎ、わずかな時間でも、住み慣れた家や地域に出向く“ふるさと訪問”の機会を作る。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。